第74回 (2023年度) 定時株主総会

2024年6月25日 東洋合成工業株式会社



創業70周年に感謝



- ・2024年9月27日、当社は70周年を迎えます。
- ・現在まで、事業成長を支えて頂いたすべての関係者の方々に心より感謝申し上げます。































経済状況



- ・米国 → インフレ/利上げ継続・消費堅調
- ・欧州 インフレ/利上げ継続・消費停滞・景気減退
- ・中国 🔰 景気減退·内需後退
- ・日本 フ 円安、インバウンド、サービス需要が拡大、賃上げ、緩やかな景気回復
- ・グローバル:露ウ、中東紛争長期化、インフレ出口戦略(為替変動)



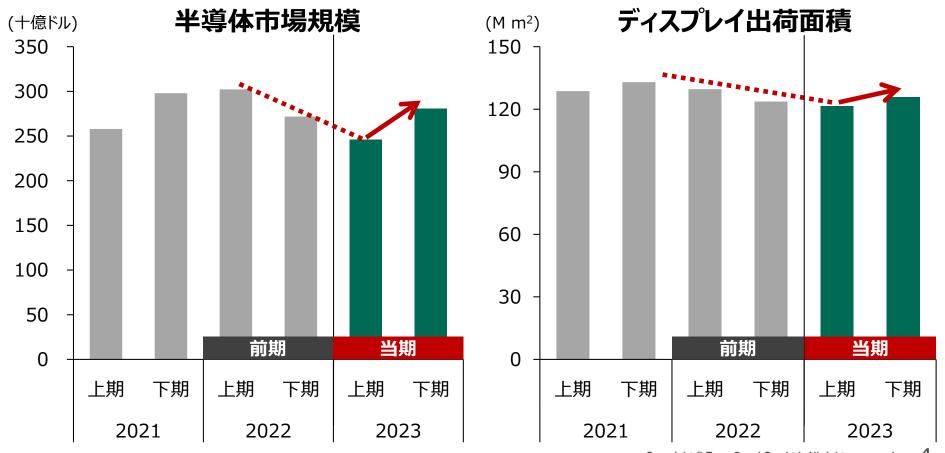




半導体・ディスプレイ市場 13-14ページ



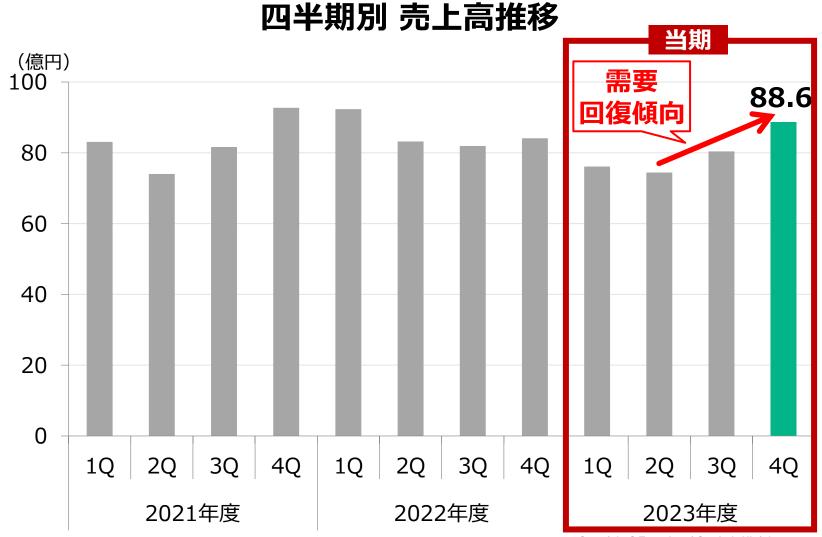
- ・半導体市場:2022年は在庫調整影響で減速、2023年途中以降 は先端分野中心に回復基調
- ・ディスプレイ市場:中国の大型パネル生産が軟調



四半期別 売上高推移



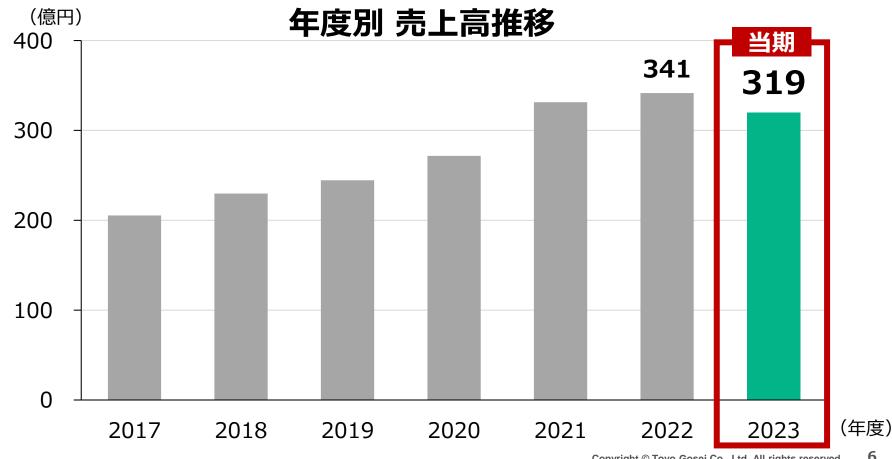
・需要の減少は2Qに底打ち。下期以降、緩やかに回復傾向。



年次 売上高推移



- ・半導体市場の調整影響により、2023年度は前年比6%減少の 319億円。
- ・2024年度は回復の見通し。



損益計算書



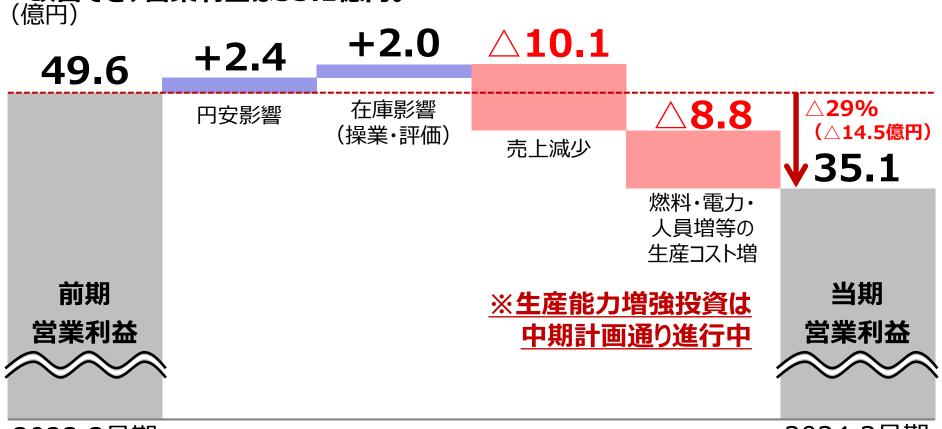
- ●売上高は、半導体の在庫調整影響により、319.5億円
- •営業利益は、売上減少と生産能力増強の約3億円の固定費上昇により 35.1億円

(百万円)	前期	当期	前年 増加額	度比 増加率
売上高	34,156	31,956	△2,200	△6%
売上総利益	9,033	7,600	△1,433	△16%
営業利益	4,968	3,512	△1,456	△29%
経常利益	5,122	3,393	△1,729	△34%
当期純利益	3,827	2,396	△1,431	△37%
期中平均為替レート	¥133/\$	¥144/\$		

営業利益 前期比 増減要因



- ・ 前期比売上減少、燃料・電力料のコスト増、生産能力増強投資を継続する中、 費用計画を見直し、期首25億円増→実績8.8億円増に抑制。
- ・ さらに円安影響、在庫評価益、需要回復も寄与し、営業利益14.5億円減少まで 、改善でき、営業利益は35.1億円。



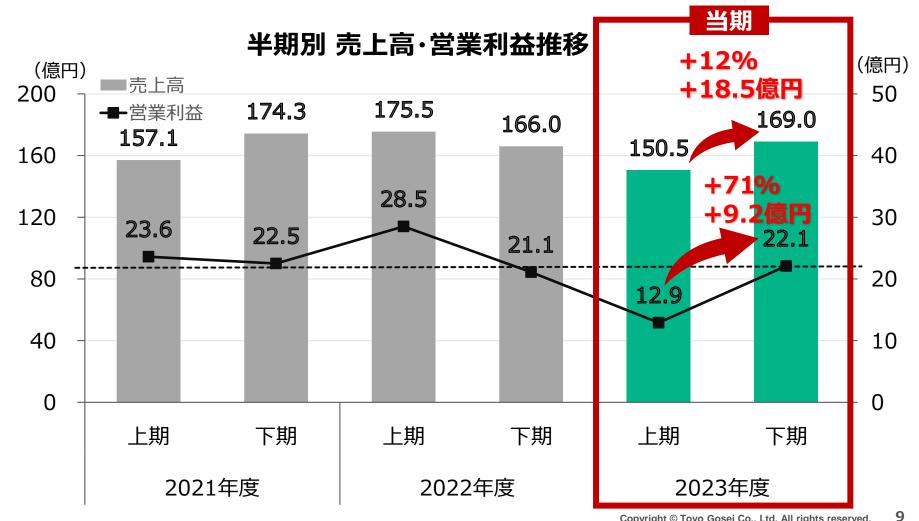
2023.3月期

2024.3月期

半期別 売上高·営業利益推移



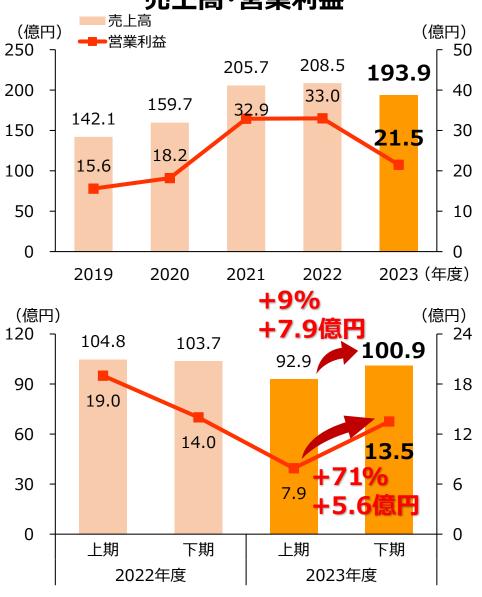
- •下期以降回復。上期比 売上+12%、営業利益+71%
- 生産能力増強によるコストも吸収し、利益水準も回復傾向。



感光性材料事業



売上高·営業利益



売上高:193.9億円 (前期比△7%)

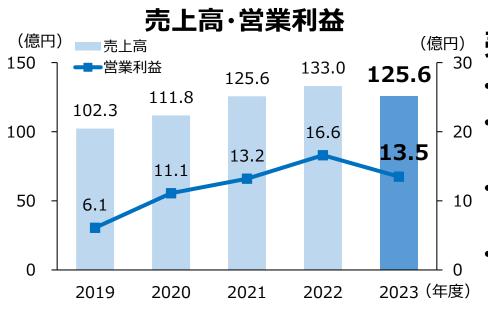
- 上期は電子デバイス市場の低迷により販売減。
- ディスプレイ向け材料は、中国の大型パネル生産 が軟調な中、一定レベルの需要を維持。
- 下期は、先端半導体向け材料を中心に回復。上期比+9%の増加。

営業利益:21.5億円(前期比△35%)

- 上期は、販売減により減益。
- 下期は、需要回復により上期比+71%の大幅 増益。
- 今後の需要拡大に向け生産能力増強は継続。

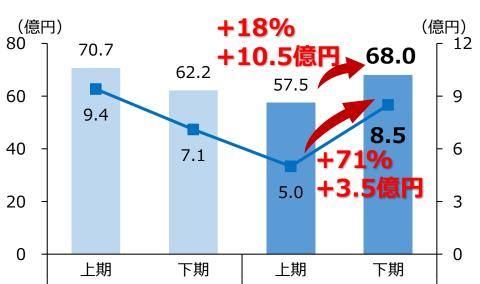
化成品事業





売上高:125.6億円(前期比△6%)

- 高純度溶剤は上期減少。下期から回復継続。
- 香料材料は、上期から回復傾向継続で前年比増収。
- ロジスティックは、荷動き低迷ながらも、タンク契約率は高水準で推移。
- 下期は、上期比+18%の増収。



2023年度

2022年度

営業利益:13.5億円 前期上△18%)

- 上期は電子材料の売上減少により、減益。
- 下期は、需要回復に伴い、上期比+71%の 大幅増益。

貸借対照表



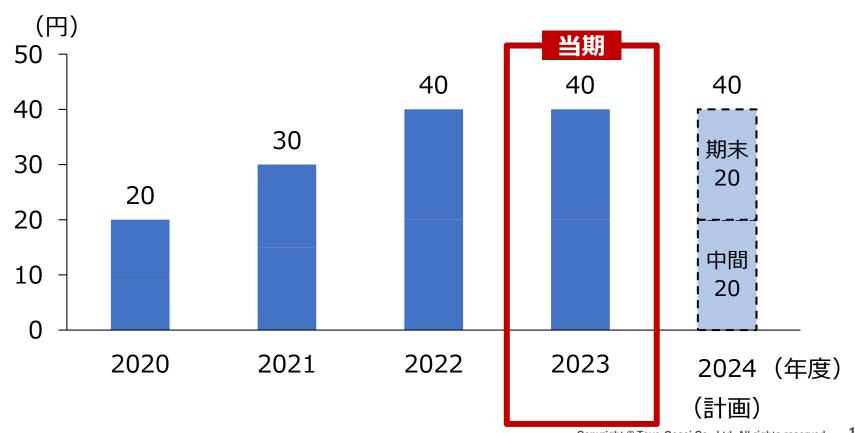
- ●棚卸資産は、売上の回復と仕入抑制により△14.2億円。
- 有形固定資産は、生産能力増強の設備投資により+62.2億円。
- ●借入金は、設備投資増加により+41.1億円。
- 株主資本は、純利益の計上により+20.7億円。

(億円)	前期末	当期末	増減額	(億円)	前期末	当期末	増減額
流動資産	216.8	226.8	+9.9	負債	314.6	376.9	+62.2
現金預金	32.5	36.4	+3.9	仕入債務	49.4	40.0	△ 9.3
売上債権	59.1	72.2	+13.1	借入金	178.9	220.0	+41.1
棚卸資産	117.5	103.3	△ 14.2	その他	86.2	116.7	+30.4
その他	7.6	14.7	+7.1	•			
固定資産	294.2	368.3	+74.1	純資産	196.4	218.2	+21.8
有形固定資産	276.3	338.6	+62.2	株主資本	195.5	216.3	+20.7
無形固定資産	6.0	15.7	+9.7	評価•換算差額等	0.8	1.9	+1.0
投資・その他	11.7	13.9	+2.2				
資産合計	511.0	595.1	+84.1	負債·純資産合計	511.0	595.1	+84.1

配当



- 基本方針:株主還元・成長投資・財務バランス等を総合的に勘案し 決定
- 当期配当は、業績結果と今後の成長投資から、年間40円とさせていただきます



招集ご通知 15-17ページ

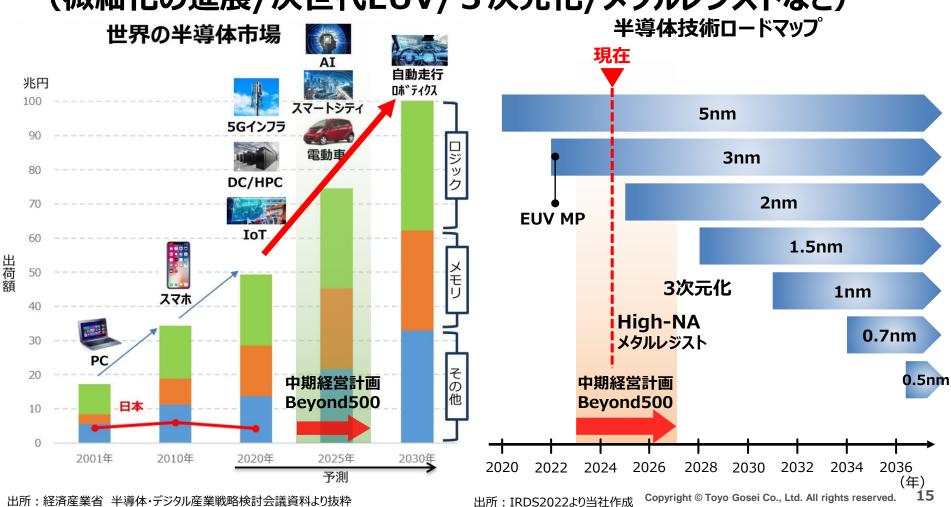


今後の成長に向けた 対処すべき課題

半導体市場の長期予測



- •社会全体のデジタル化に伴い、2030年に向けて倍増の見込み。
- •70年間培った溶剤/感光材製造技術に磨きをかけ、業界の進化を支える (微細化の進展/次世代EUV/3次元化/メタルレジストなど)

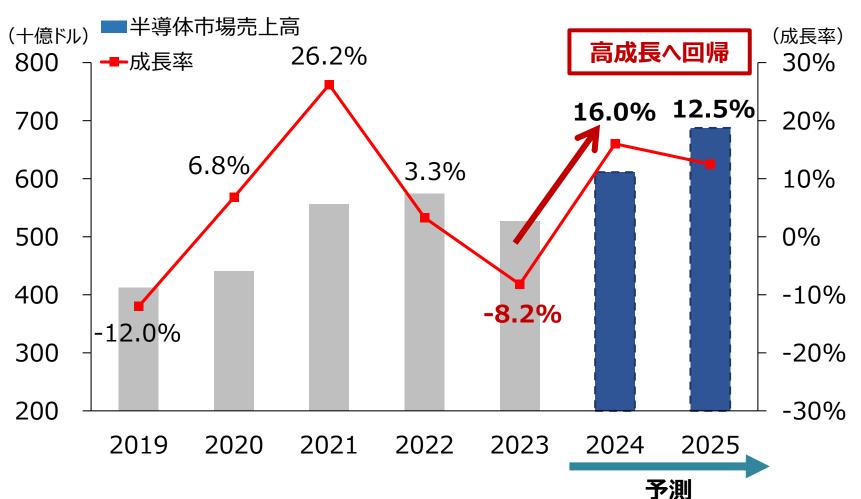


半導体市場の成長率推移



•2023年はマイナス成長だが、2024年以降は高成長に回帰

世界半導体市場予測



当社の感光材関連製品のラインナップ



- •1970年代から感光材の開発に着手。半導体全世代をカバー。
- •引き続き全世代の感光材や高純度溶剤の品質を向上し、製品ラインナップの更なる拡充を図る。



粗い

細かい



	FPD/	ペネル用										
光源	g+h+i線	: 《白	! g線	i線	KrF	ArF	ArF液浸 (193nm) (ArF DP	ArF MP			
源	9	(365nm)	(436nm)	(365nm)	(248nm)	(193nm)		(193nm)	EUV (13.5nm)			
ノード	~2,000nm	~1,000nm	~700nm	~200nm	~110nm	~65nm	~45nm	~22nm	~7nm	~5nm	~2nm	~1.4nm
用	中小型 テレビ用、	IGBT、LCDドライ	バ、LED	DRAM/NAND 是D 需要拡大			Eリ 次世代DRAM テスト生産					
途			後工程用パッケージ材料 CMOSセンサー			先端ロジックLSI 需要拡大			次世代ロジックLSI EUV生産拡大			
市場	需給ひつ迫	中国 パネル 需要拡大	緩やかに 拡大	緩やかに 拡大	緩やかに 拡大	横ばい		拡大 设備投資 大	ž	半導体設 侦 投資加速		開発中
当社製品	感光材(PAC) 高純度溶剤			光酸発生剤(PAG) Polymer 高純度溶剤								

全世代の感光材を供給できる世界唯一のメーカー



●グローバルNO.1シェアの独自性の高い製品を供給する企業として、「2020年版グローバルニッチトップ企業(素材・化学部門)」に選定。



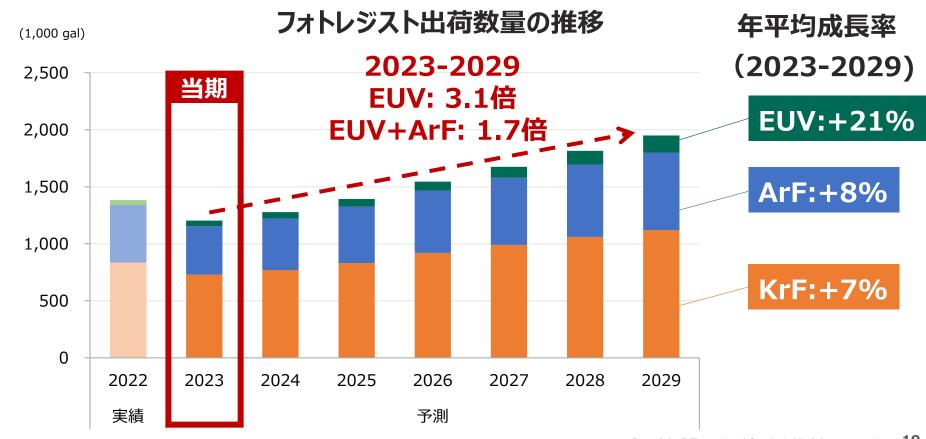
半導体向けフォトレジスト市場の見通し



- •世界半導体市場は2024年16%成長、2025年以降も二桁以上の成長を想定
- EUV (先端半導体) レジストは、2023年-2029年、年21%で3倍に成長。
- ◆ 先端レジスト(EUV+ArF)の需要量も1.7倍に拡大見込み。

出所: 2024年2月 富士キメラ総研

• 千葉工場 第4感光材工場 能力増強完成により、当社キャパシティは1.8倍に拡大。

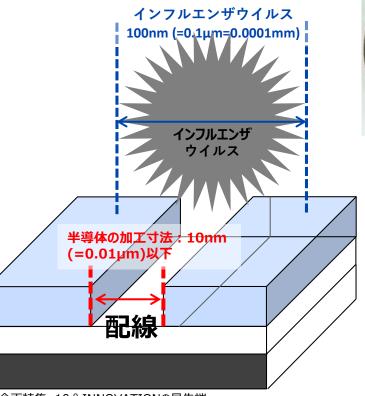


先端半導体(EUV)での当社の強み

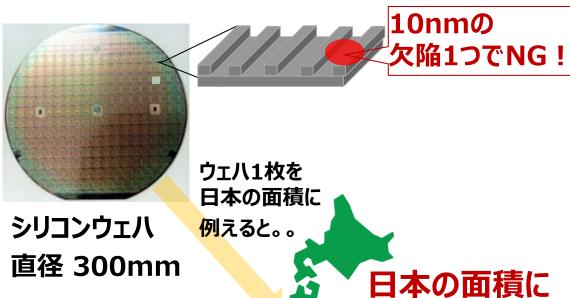


- 約半世紀の量産実績、蓄積した技術ノウハウ、機を捉えた設備投資
- 先端半導体に必須の極限まで高純度化した感光材・高純度溶剤を供給
- ●世界シェア50~70%

10万分の1mmを管理



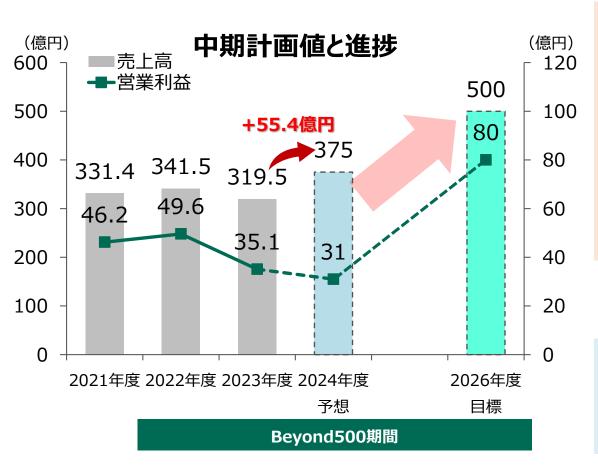
企画特集 10-9 INNOVATIONの最先端 ~ Life & Green Nanotechnologyが培う新技術~から抜粋



日本の面積に 10円玉1枚 の欠陥でNG!

中期経営計画「Beyond500」進捗15ページ 東洋合成

- •前期は市場低迷、今後は電子材料市場の中期的な成長を想定。
- 需要拡大に向けた、生産能力増強投資は計画通り今期稼働。
- 人材育成や技術戦略強化も進行中。



2027年3月期目標

売上高:500億円以上

営業利益:80億円以上

(16%以上)

設備投資額:300億円

(中期経営計画期間累計)

※為替前提:¥115/\$



2022年3月期実績

売上高:331億円

営業利益:46億円(14%)

生産能力増強・製造技術力強化の施策進捗



•2025年にはすべての設備が稼働開始予定。





持続可能な成長(サステナビリティ)に向けた取り組み

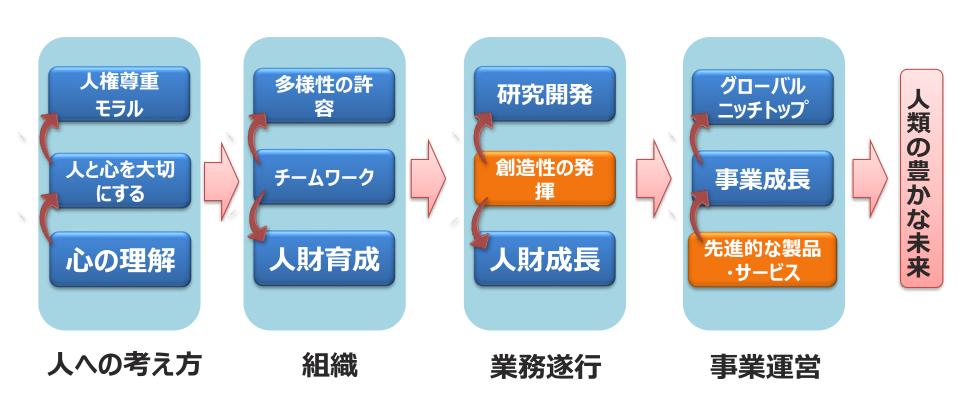
(環境·人的資本·地域貢献)

人的資本

イノベーションを事業成長に繋げる組織



- •心の理解が良いチームワークを育み、創造性が発揮され、 先進的な製品開発や仕組化が生まれ、事業成長に繋がる
- ●それが文化となれば、イノベーション(含む改善、仕組化)を連続的に生む 組織となり、連続的成長が実現する。



2024.5.15 感光材開発分析棟完成



分散化していた研究開発、プロセス開発、品質管理の部隊を一つの拠点に 集約し、開発分析体制を大幅に強化。先端半導体フォトレジスト用感光材 の研究開発や製造技術開発を加速。



外観



ロビー



ラボエリア



オフィスエリア



オープンコミュニケーションエリア

仕事環境と人材育成の取り組み



■中期計画:長期の持続的な事業拡大に向け、充実した仕事環境と 人材育成への投資



- 2024年2月「人権方針」を制定
- 「一人ひとりが実感できる安全」の実現に向け、全工場で安全文化醸成ワークショップを開催。トラブル減少に効果。さらに主体的な仕組み構築、よき職場環境の実現に向けて活動を継続。

本音での対話(関係構築)

真の課題の 見える化 (組織能力強化) 未来への行動 につなげる (人材育成)





開発部門、品質管理部門の一元化と 知の創発を狙う職場環境設備が完成





人的資本

ダイバーシティ・健康経営



■ダイバーシティ & インクルージョン (多様性の許容と公平性)

目標	進捗状況		
✓ 女性管理職人数 2024年3月末 10名到達	2024年3月末 10名達成		
✓ 女性活躍の推進(2026年3月末までの施策)・女性が働きやすい職場環境整備に向け、女性を対象とした 社内アンケートを実施し、多様なキャリア・働き方の支援を推進。	2024年4月1日に新たに目標設定		
✓ 男性社員の育児休業取得率 2026年3月末 40%以上	2024年3月末 57.7%を達成		
✓ 障がい者法定雇用率 2.5%の達成	2024年3月末 2.7%を達成		

■健康・安全

● 2023年を「健康施策実施元年」と定めて社員の健康意識の底上げ、 健康増進への取り組みを開始。

→健康経営優良法人2024に認定

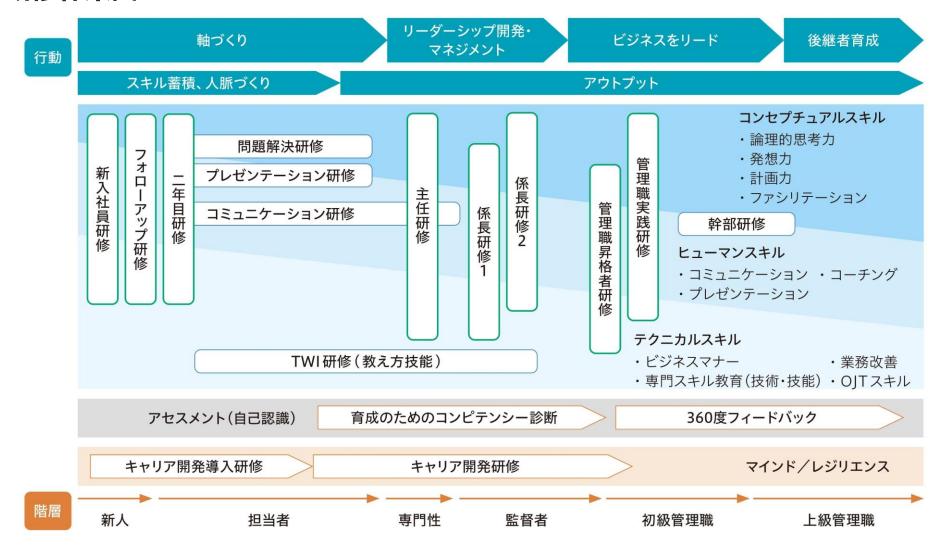
2024 健康経営優良法人 Health and productivity

人的資本

段階に応じた人材育成制度



研修体系図



地域貢献

地元地域への取り組み



■奨学金・研究助成・大学連携

- 奨学金·研究助成:東庄町、千葉大、早大、東洋合成記念財団
- 千葉大学連携:
 - ・感光材黎明期からの学術連携
 - ・授業での連携「データ科学の実社会での応用と実際」
 - ・千葉大学基金への寄付拡大

■地元地域との連携

- 地元名産品の株主優待品
- 地元のスポーツ振興を支援:
 - ・千葉ロッテマリーンズ
 - ・鹿島アントラーズ





環境·外部認証



■CO₂削減目標を設定

Scope1+2 2030年度 32%削減 (2013年度比)

省エネ対応 エネルギー使用を原単位 前年比1%削減

進捗

電力量に注目(CO2排出量の約40%)し、グリーン電力化の計画を立案。 2023年は、淡路工場でグリーン電力使用比率を30%から50%まで引き上げ。

■外部認証

- EcoVadis (全世界) サステナビリティ調査:シルバーメダル 「環境」「労働と人権」「倫理」「持続可能な原料調達」が高評価。
- 日本政策投資銀行BCM格付
- 事業継続計画 ISO22301 化学業では日本で2番目に取得。 「事業継続に対する取り組みが特に優れている」と評価。





ハラール認証

ハラール認証:イスラム教の教えに則っているか、安全か、 という点に重点を置き、ハラル性を保証する制度。Copyright

今後に向けて



- 2023年の半導体市場は調整局面でございましたが、
- 市場の成長トレンドに変更はなく、70周年の2024年、
- 半導体市場の拡大への転換は始まっており、
- 当社の生産能力増強投資は、上半期にほぼ完了の予定です。
- 当社は社員一人一人を力を合わせ、安全を最優先に
- 中期経営計画「Beyond500」の達成、その先にある日本や世界の未来
- の創造に向け邁進してまいります。
- 株主様やステークホルダーの皆様のご支援、ご理解に心より感謝し、
- 更なる皆様のご期待に応えるべく、企業価値向上を目指してまいります。
- 皆様の引き続きのご理解・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical



東洋合成工業株式会社

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。

従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。